

190 第4類 消防設備士過去問題集 鑑別編 大改訂第1版 正誤表

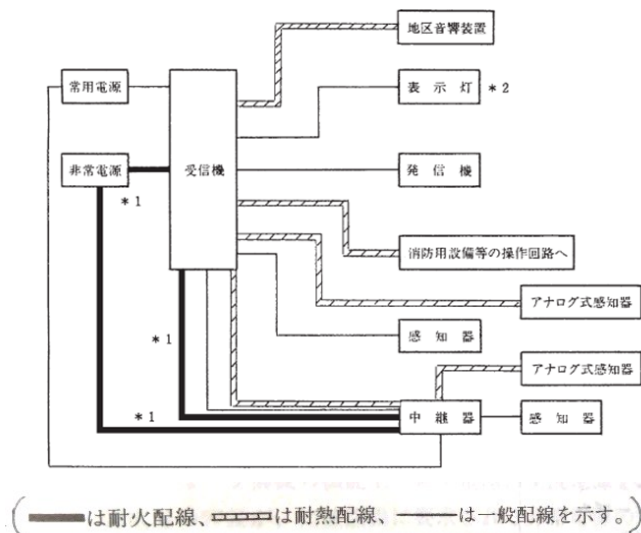
本書の掲載内容に下記の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

ページ	訂正箇所	誤	正
p.50	中央図の左	(A) m以内 (B) m以内	(B) m以内 (C) m以内
p.54	設問1の問題文に追加	なお、Aについては、定温式ではないものとする。	
p.140	下から7行目	⇒<G型受信機の火災表示試験>	⇒<G型受信機のガス漏れ表示試験>
p.164	5行目 設問2	中経器を介する・・・	中継器を介する・・・
p.193	解説 設問2 耐火配線工事 工事の方法	(埋設深さは壁体等の表面から10mm以上)。	(埋設深さは壁体等の表面から10mm以上。但し、合成樹脂管は20mm以上)。
	解答 設問2 最下行	埋設深さは壁体等の表面から10mm以上としなければならない。	埋設深さは壁体等の表面から20mm以上となければならない。

<補足>

P192,問題6のCについて:下図、平成14年9月30日、消防予第282号の耐火、耐熱配線の図より、Cは*1の部分になり、受信機に予備電源が内蔵してあれば受信機～非常電源の間は一般配線でよいという解釈の元に、解答を一般配線としてあります。

⑤ 自動火災報知設備



- 注 *1 中継器の非常電源回路 (受信機又は中継器が予備電源を内蔵している場合は一般配線でよい。)
- *2 発信機を他の消防用設備等の起動装置と兼用する場合、発信機上部表示灯の回路は、非常電源付の耐熱配線とすること。